

米国経済・金融概況 (2023年4月)

2023年4月17日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

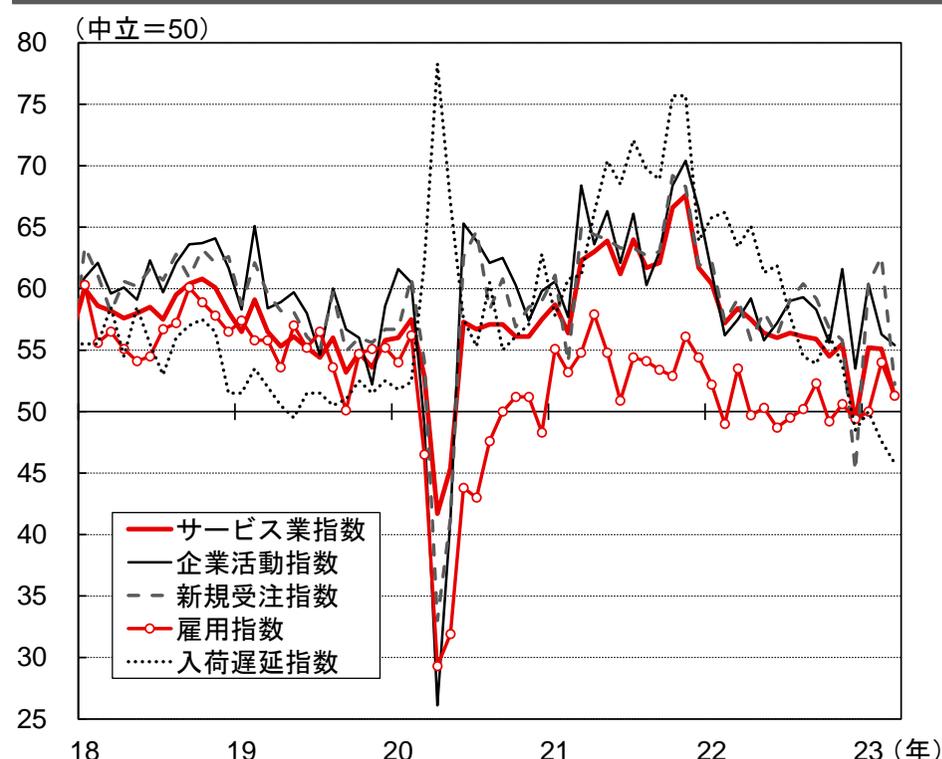
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、3月に46.3(前月比▲1.4ポイント)と5ヵ月連続の50割れ。指数の構成項目をみると、生産指数(47.8、同+0.5ポイント)は上昇した一方、新規受注指数(44.3、同▲2.7ポイント)、在庫指数(47.5、同▲2.6ポイント)、雇用指数(46.9、同▲2.2ポイント)、入荷遅延指数(44.8、同▲0.4)が低下。雇用指数は2020年7月以来の低水準となり、労働市場の軟化を示唆。産業別では全18産業のうち6産業が拡大、12産業が縮小を報告(2月は4産業が拡大、14産業が縮小)。
- 3月のISMサービス業指数(総合指数)は51.2(前月比▲3.9ポイント)と2ヵ月連続で低下。指数の構成項目をみると、新規受注指数(52.2、同▲10.4ポイント)は1~2月の高い水準からの反動もあり大幅に低下したほか、雇用指数(51.3、同▲2.7ポイント)、入荷遅延指数(45.8、同▲1.8ポイント)、企業活動指数(55.4、同▲0.9ポイント)もそれぞれ低下。産業別では全18産業のうち13産業が拡大、5産業が縮小を報告(2月は13産業が拡大、4産業が縮小、1産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料) 全米供給管理協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

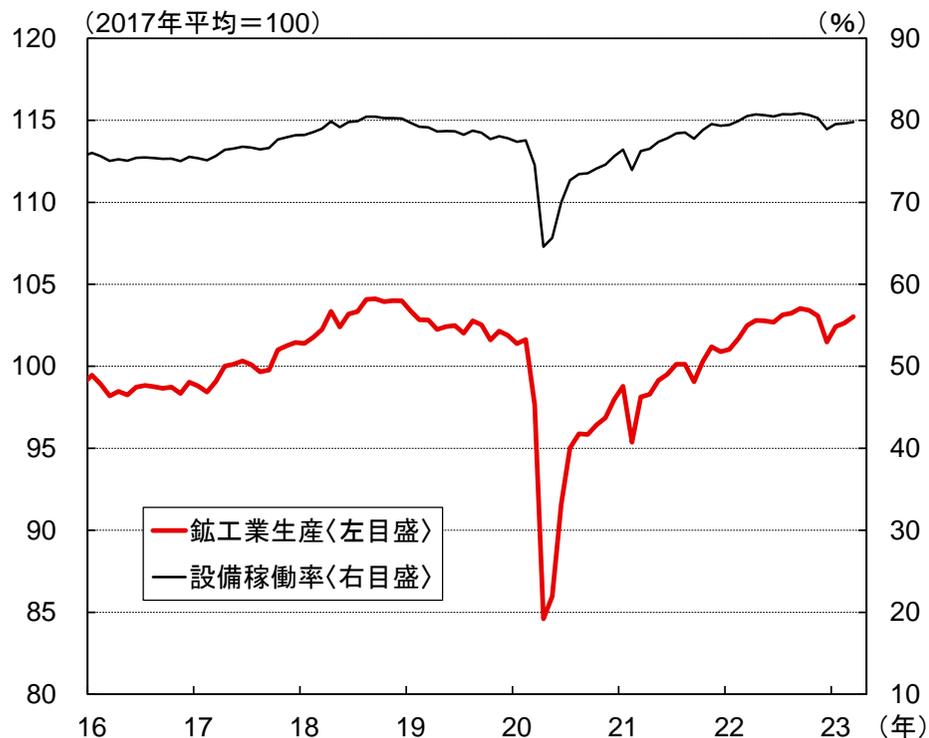


(資料) 全米供給管理協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

- 3月の鉱工業生産は前月比+0.4%と3カ月連続で増加。産業別にみると、全体の約7割を占める「製造業」(同▲0.5%)は「自動車・同部品」(同▲1.5%)をはじめ幅広い業種が減少したほか、「鉱業」(同▲0.5%)も2カ月連続で減少。一方、「公益事業(電力・ガス)」は、2月までの暖冬から3月は平年並みの気温となったことで暖房需要が強まり、同+8.4%と3カ月ぶりに大幅増加。3月の設備稼働率は79.8%と前月から0.2%ポイント上昇。
- 2月の耐久財受注は前月比▲1.0%と2カ月連続で減少。内訳をみると、電機・家電(同+0.7%)、金属製品(同+0.2%)、コンピュータ・電子製品(同+0.1%)は増加した一方、輸送用機器(同▲2.8%)、機械(同▲0.6%)が減少して全体を下押し。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同▲0.1%と2カ月ぶりに減少。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

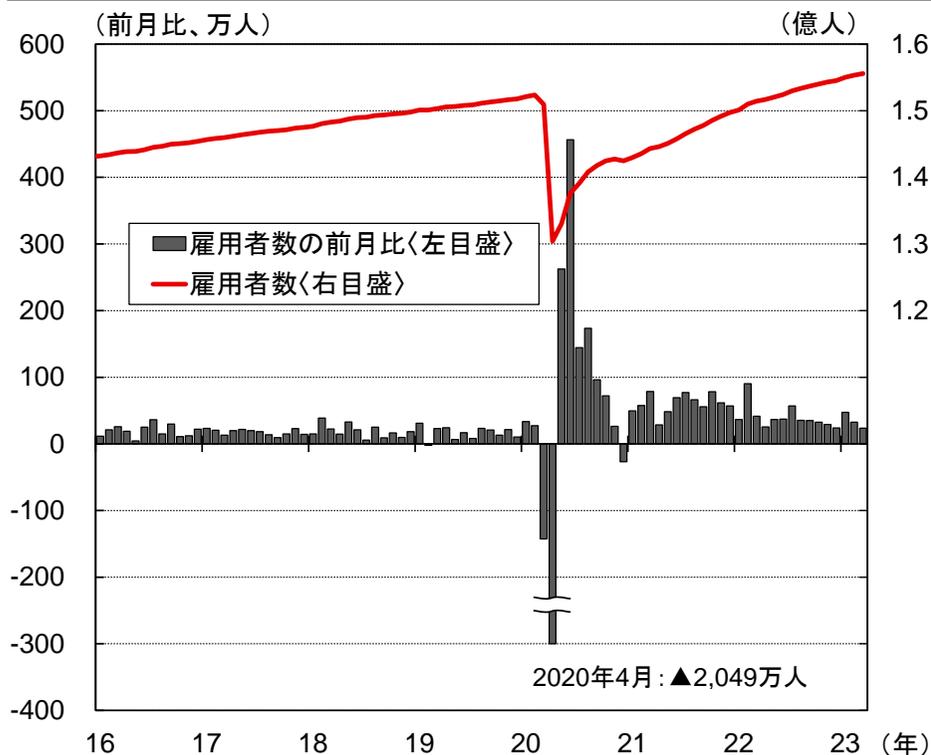


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

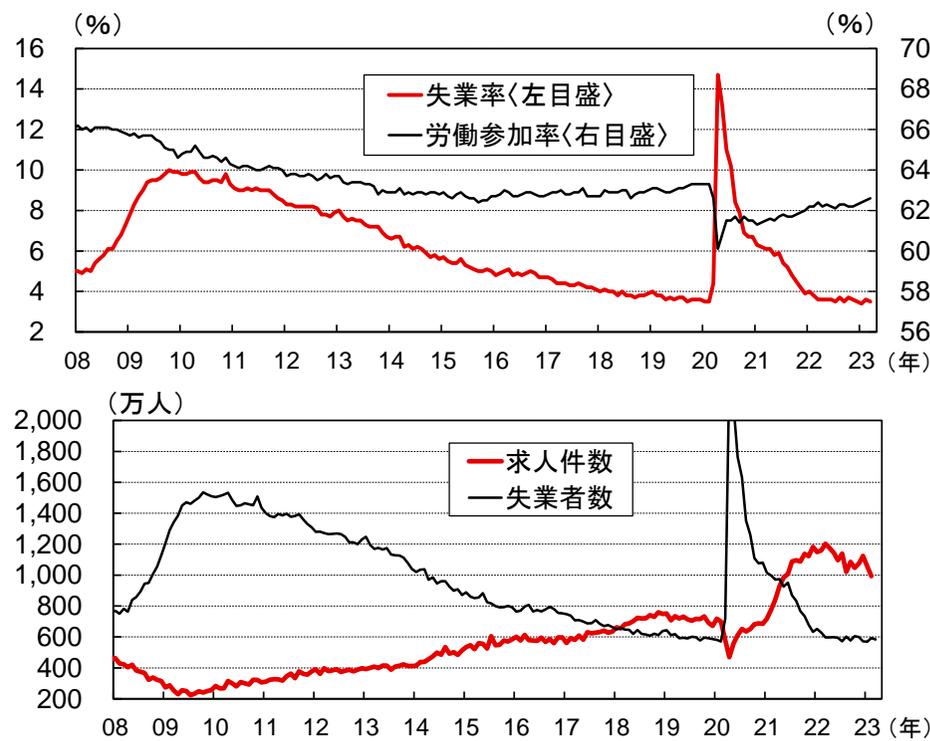
- 3月の非農業部門雇用者数は前月比+23.6万人と堅調に増加したものの、1月(同+47.2万人、改定値)、2月(同+32.6万人、改定値)から減速。業種別にみると、「小売業」(同▲1.5万人)、「建設業」(同▲0.9万人)、「製造業」(同▲0.1万人)が減少。また、「レジャー・飲食・宿泊」(同+7.2万人)、「公務」(同+4.7万人)、「医療」(同+3.4万人)の増加幅は前月から縮小。
- 3月の失業率は3.5%と前月から0.1%ポイント低下し、失業者数は583.9万人(前月比▲9.7万人)と減少。労働参加率は62.6%(前月比+0.1%ポイント)と4ヵ月連続で上昇。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.2%(2月:同+4.6%)と4ヵ月連続で鈍化。
- 2月の求人件数は993.1万件(前月比▲63.2万件)と、1年9ヵ月ぶりに1,000万件を下回った。求人件数は依然として高水準であるものの、2022年3月をピークとして減少基調にあり、緩やかながら労働需給は緩和方向。

非農業部門雇用者数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

失業率・労働参加率・求人件数・失業者数の推移

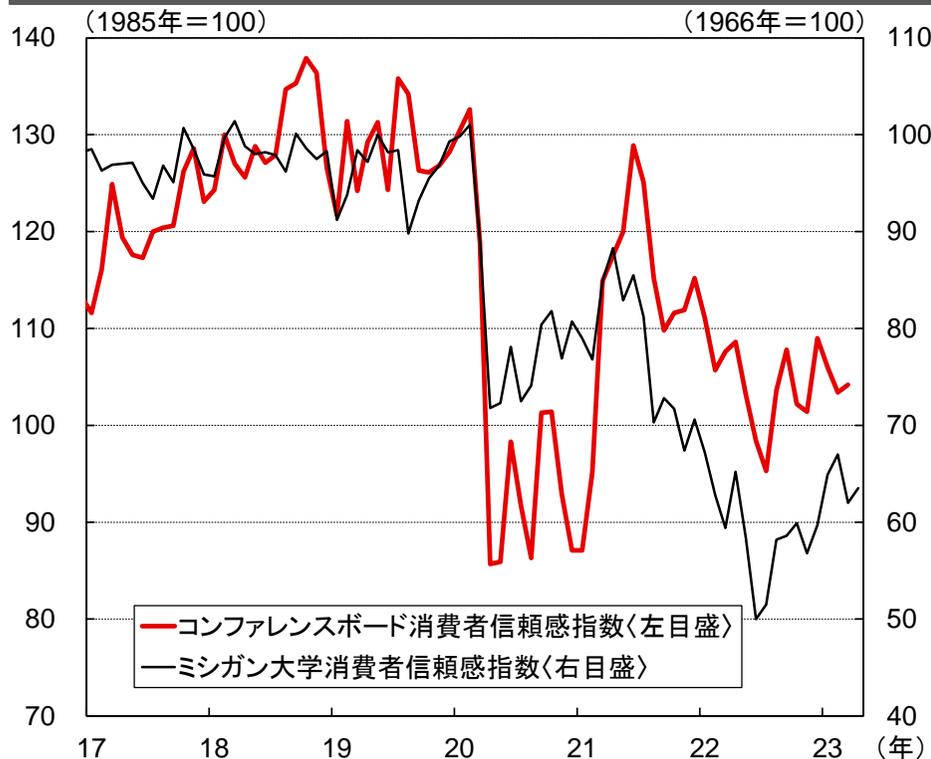


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

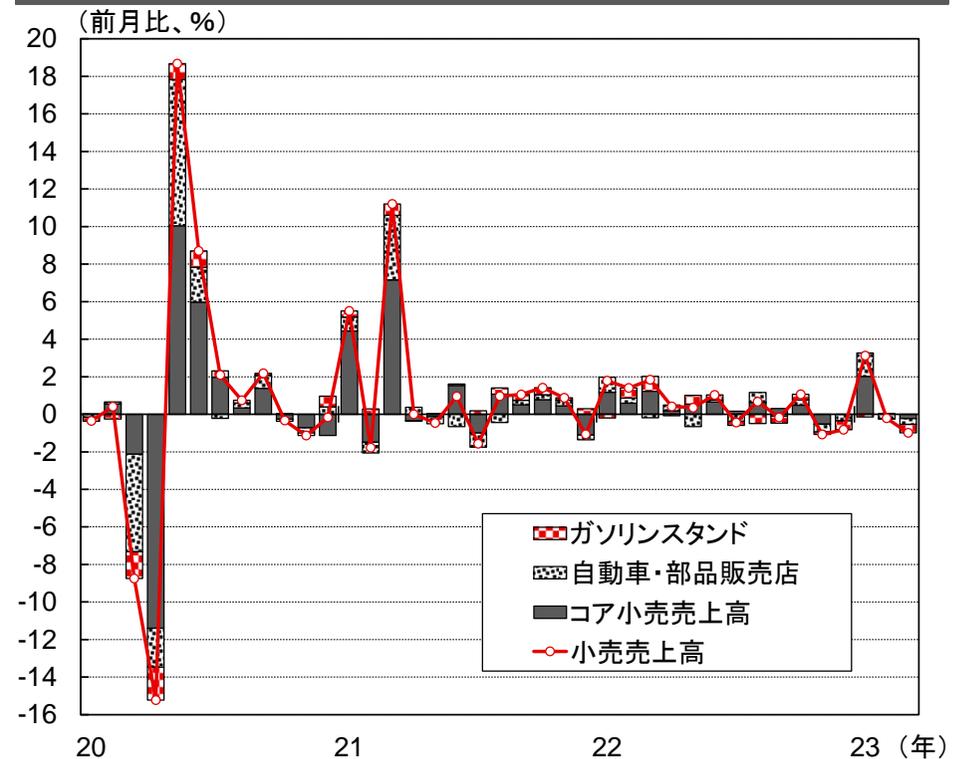
- 3月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は104.2(前月比+0.8ポイント)と3カ月ぶりに上昇。また、4月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報値)も63.5(同+1.5ポイント)と2カ月ぶりに上昇。3月以降の金融システム不安の影響は顕著には表れておらず、インフレの緩和等により消費者マインドは持ち直し。
- 3月の小売売上高は前月比▲1.0%と2カ月連続で減少(2月:同▲0.2%、改定値)。業種別にみると、「無店舗小売店」(同+1.9%)、「飲食店」(同+0.1%)が増加した一方、「自動車・部品販売店」(同▲1.6%)、「ガソリンスタンド」(同▲5.5%)、「建材・園芸用品店」(同▲2.1%)、「衣服販売店」(同▲1.7%)等は減少。「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同▲0.3%と3カ月ぶりに減少。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

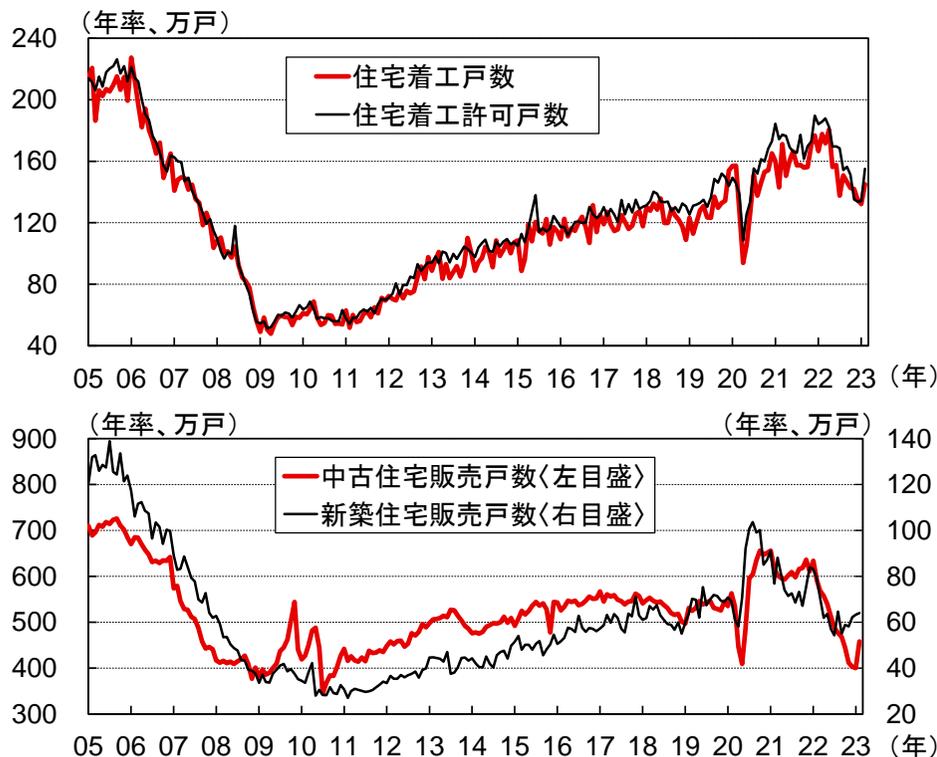


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

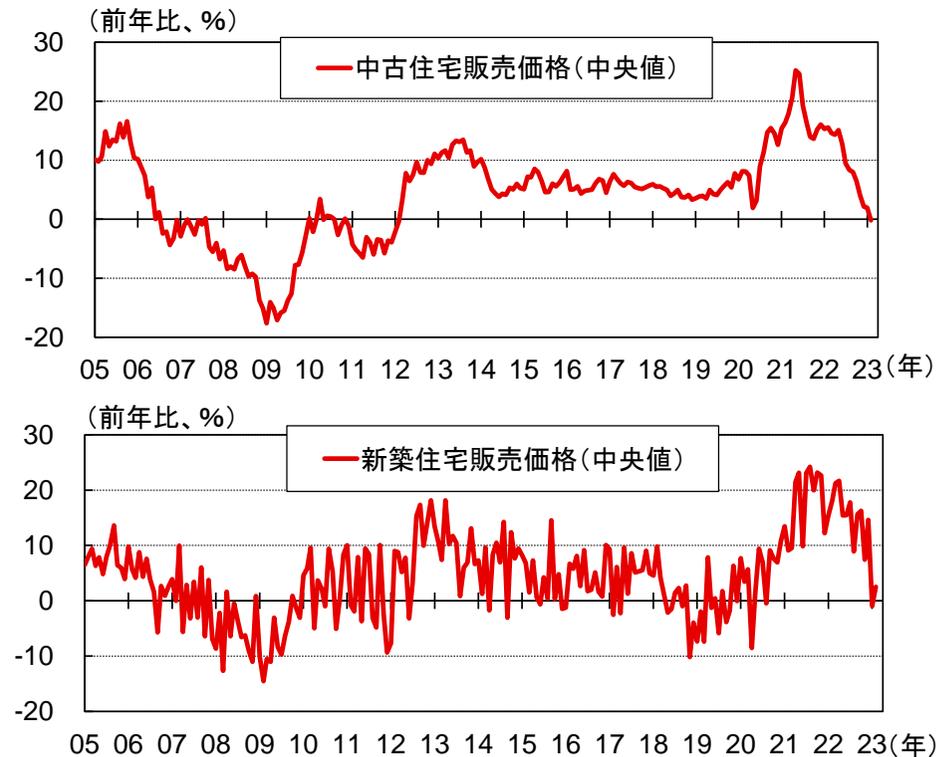
- 2月の住宅着工戸数は前月比+9.8%の年率145.0万戸(季節調整済)と6ヵ月ぶりに増加。内訳をみると、一戸建住宅は同+1.1%、変動の大きい集合住宅(2世帯以上)は同+24.0%とそれぞれ増加。先行指標である住宅着工許可戸数は同+15.8%の年率155.0万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で増加。
- 2月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比+14.5%の年率458.0万戸(季節調整済)と13ヵ月ぶりに大幅増加、新築住宅も同+1.1%の年率64.0万戸(季節調整済)と3ヵ月連続で増加。住宅着工及び住宅販売は急速な金利上昇を受けて大幅に落ち込んだ後、足元は底打ちしつつあるものの、今後は3月以降の金融システム不安や銀行貸出態度厳格化の影響が注目される。
- 2月の住宅販売価格は、中古住宅が363,000ドル(中央値)、前年比▲0.2%(1月:同+1.9%)と11年ぶりに下落。一方、新築住宅は438,200ドル(中央値)、同+2.5%(1月:同▲0.9%)と2ヵ月ぶりに上昇。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

- 3月の消費者物価指数は前年比+5.0%と9カ月連続で伸びが鈍化(2月:同+6.0%)。エネルギー価格高騰が一巡し、エネルギーは同▲6.4%と2021年1月以来のマイナス。一方、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+5.6%と伸びがやや加速(2月:同+5.5%)。コア指数のうち財は、「新車」(2月:同+5.8%→3月:6.1%)の伸びが加速し、「中古車」(同▲13.6%→同▲11.2%)はマイナス幅が縮小。サービスは、「住居」(同+8.1%→同+8.2%)の高い伸びが続いた一方、「輸送サービス」(同+14.6%→同+13.9%)、「医療サービス」(同+2.1%→同+1.0%)の伸びは鈍化。
- 3月の生産者物価指数は前年比+2.7%と9カ月連続で伸びが鈍化(2月:同+4.9%)。内訳をみると、「財」は同+2.0%(2月:同+5.4%)、「サービス」は同+2.8%(2月:同+4.4%)と伸びがそれぞれ鈍化。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.4%(2月:同+4.8%)と12カ月連続で伸びが鈍化。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 国際収支

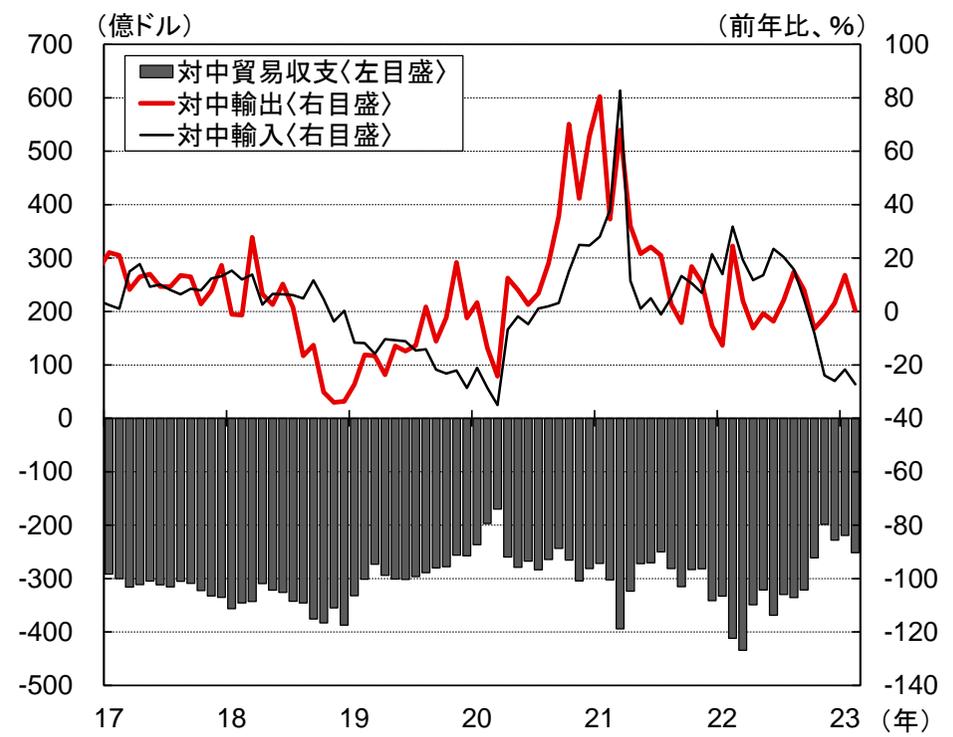
- 2月の貿易収支(財・サービス)は705億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+2.7%(同+187億ドル)と拡大。輸出は同▲2.7%、輸入は同▲1.5%とそれぞれ減少。前年比でみると輸出は+8.1%、輸入は+0.7%。
- 財の貿易収支を国・地域別にみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国との貿易赤字は2月に252億ドルとなり、赤字幅は前月比+14.8%(同+32億ドル)と拡大。対中輸出(財)が同▲9.7%と減少した一方、対中輸入(財)は同+5.0%と増加。前年比でみると、対中輸出(財)は+0.4%、対中輸入(財)は▲27.3%。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
 (資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
 (資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、3月のシリコンバレーバンク(SVB)及びシグネチャーバンク破綻に伴う金融システム不安や景気悪化懸念の高まりにより、4月上旬に3.3%台まで低下。その後、堅調な雇用統計等を受けて、次回FOMC会合で利上げを継続されるとの見方が強まり、4月14日には3.5%台まで上昇。
- ダウ平均株価は、中堅銀行2行の破綻を受けて下落したものの、当局の迅速な対応等により下げ止まり。3月下旬以降は、金融システム不安が一服するとともに、FRBの利上げ局面は終盤との見方も下支えとなり上昇基調で推移。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : 角田 ともみ e-mail : tkakuta@us.mufg.jp